

本模擬問題における問題等の著作権はすべて東京CPA会計学院に帰属します。無断転載・二次利用は固く禁止いたします。

第1問 (20点)

次の各取引について仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

受取手形	売	上	前	払	金	資	本	金
支払手形	買掛	金	普	通	預	金	有	価
当座預金	現	金	仕		入	未	払	金
未収入金	売掛	金	前	受	金	損		益

1. 豊田商店は証券取引所を通じてX社株式2,000株を1株当たり¥2,500で取得し、代金は購入手数料(1株当たり¥30)を含めて3日後に普通預金口座から支払うこととなった。
2. 北川商事は北村販売から商品を仕入れ、代金のうち40%相当額は以前支払っていた手付金を充当し、¥220,000は約束手形を振り出して支払い、残額の¥140,000は掛とした。
3. 上西商店は当期の決算振替仕訳にあたり、当期純損益の額を資本金勘定へ振り替えることとした。なお、損益勘定の残高は¥2,455,000(借方残)である。
4. 平野販売は、商品A400個を自家消費した。なお、商品Aの自家消費までの売買の状況は、次のとおりであり、売価は1個当たり¥200である。また、平野販売は、商品Aの払出単価の計算について先入先出法を採用している。
 - (1) 当期首残高 520個 仕入単価 ¥120
 - (2) 仕入 450個 仕入単価 ¥118
 - (3) 販売 330個 販売単価 ¥190
 - (4) 仕入 260個 仕入単価 ¥121
 - (5) 販売 350個 販売単価 ¥195
5. 宮園商店は仕入先から現金で仕入れた商品¥360,000が品違いだったため、そのすべてを返品した。なお、宮園商店はその仕入先から他の商品も仕入れる予定であったため、返品した商品の仕入代金はその他の商品の手付金として取り扱うこととした。

第2問 (8点)

星野商店の当期(平成28年1月1日から平成28年12月31日まで)における次の【貸付金に関する資料】および【勘定記入】にもとづいて、貸付金勘定、未収利息勘定および受取利息勘定の空欄①から④に当てはまる金額を答案用紙に記入しなさい。なお、利息の計算はすべて月割による。

【貸付金に関する資料】

星野商店が有する貸付金の内容は、次のとおりである。

貸付先	貸付日	年利率	備考
A商店	平成27年12月1日	2%	毎年5月31日および11月30日に半年分の利息を後払いで受け取る。
B商店	平成28年7月1日	3%	毎年6月30日に1年分の利息を後払いで受け取る。

【勘定記入】

				貸付金					
1/1	前	繰	越	①	12/31	次	繰	越	?
7/1	普	通	預	2,000,000					
				?					?
				未収利息					
1/1	前	繰	越	5,000	1/1				?
12/31			?	?	12/31	次	繰	越	②
				?					?

受取利息

1 / 1	?	?	5 / 31	普 通 預 金	④
12 / 31	?	③	11 / 30	普 通 預 金	?
			12 / 31	?	?
		?			?

第 3 問 (34点)

三輪商店の次の【繰越試算表】および【平成28年1月中の取引】にもとづいて、答案用紙の合計残高試算表を完成させなさい。なお、当期は平成28年1月1日から平成28年12月31日までの会計期間であり、利息は月割により計算する。

【繰越試算表】

現 金	244,600	支 払 手 形	1,442,000
当 座 預 金	3,953,800	買 掛 金	2,854,500
受 取 手 形	2,553,200	借 入 金	?
売 掛 金	4,046,800	未 払 利 息	?
繰 越 商 品	320,300	前 受 利 息	4,500
貸 付 金	?	貸 倒 引 当 金	?
前 払 営 業 費	12,600	建 物 減 価 償 却 累 計 額	585,000
建 物	?	備 品 減 価 償 却 累 計 額	?
備 品	900,000	資 本 金	?
土 地	1,000,000		
	?		?

- 貸倒引当金は、売上債権の2%相当額である。
- 貸付金については毎年4月1日および10月1日に年1%で計算した利息(半年分)を前払いで受け取る。
- 建物は平成20年7月1日から使用を開始したもので、耐用年数30年、残存価額10%であり、定額法により償却している。
- 備品は平成26年11月1日から使用を開始したもので、耐用年数5年、残存価額ゼロであり、定額法により償却している。
- 借入金については毎年奇数月の末日に年1.8%で計算した利息(2か月分)を後払いで支払う。

【平成28年1月中の取引】

- 必要な再振替仕訳を行う。

2. 現金取引

(1) 現金売上	¥	336,000
(2) 現金仕入	¥	199,300
(3) 当座預金引出	¥	455,900
(4) 当座預金入金	¥	502,100
(5) 営業費支払い	¥	155,200
(6) 売掛金回収	¥	306,000
(7) 買掛金支払い	¥	221,000

3. 当座取引

(1) 当座預金売上	¥	1,156,000
(2) 当座預金仕入	¥	901,100
(3) 当座預金入金	¥	502,100
(4) 当座預金引出	¥	455,900
(5) 営業費支払い	¥	403,800
(6) 手形満期取立	¥	1,850,000
(7) 手形割引	¥	246,200
(割引料¥13,800控除後)		
(8) 手形満期引落	¥	1,440,000
(9) 売掛金回収	¥	853,400
(10) 買掛金支払い	¥	1,120,300
(11) 利息支払い	¥	6,600

4. 売上取引

(1) 現金売上	¥	336,000
(2) 当座預金売上	¥	1,156,000
(3) 掛売上	¥	2,885,300
(4) 手形売上	¥	662,000
(5) 掛売上値引き	¥	15,000

5. 仕入取引

(1) 現金仕入	¥	199,300
(2) 当座預金仕入	¥	901,100
(3) 掛仕入	¥	1,234,000
(4) 手形仕入	¥	442,200
(5) 掛仕入戻し	¥	11,900

6. その他の取引

- (1) 土地のうち半分を ¥400,000 で売却し、代金は翌月に受け取ることにした。
- (2) 手形の受け取りにより売掛金 ¥1,855,000 を回収した。
- (3) 手形の振出しにより買掛金 ¥1,212,000 を支払った。

第 4 問 (10 点)

織田商店の次の [残高試算表 (一部)] および [当期中の取引 (一部)] にもとづいて、空欄①から⑤に当てはまる金額を答案用紙に記入しなさい。

[残高試算表 (一部)]

(単位：円)

借方科目	当期首現在	決算整理後	貸方科目	当期首現在	決算整理後
受取手形	?	①	支払手形	318,600	346,700
売掛金	731,800	767,500	買掛金	510,900	522,800
繰越商品	968,100	819,300	前受金	③	311,200
前払金	214,500	210,800	貸倒引当金	36,000	?
仕入	————	②	売上	————	④
貸倒引当金繰入	————	12,500			
貸倒損失	————	26,000			
手形売却損	————	21,800			

[当期中の取引 (一部)]

1. 売上の内訳は、次のとおりである。
現金売上 ¥1,600,100 手形売上 ¥2,876,500 掛売上 ¥ ? 手付金売上 ¥1,841,400
2. 仕入の内訳は、次のとおりであり、売上原価は仕入勘定にて計算している。
現金仕入 ¥1,094,600 手形仕入 ¥2,011,100 掛仕入 ¥4,220,700 手付金仕入 ¥ ?
3. 貸倒引当金は毎期売上債権の 3% 相当額を計上しており、当期中に売掛金の一部が回収不能となった。
4. 売掛金 ¥3,021,800 を手形の受け取りにより回収し、買掛金 ¥ ⑤ を手形の振出しにより支払った。
5. 手形の裏書譲渡により買掛金 ¥200,000 を支払い、売掛金の回収として以前振り出した手形 ¥ ? の裏書譲渡を受けた。
6. 当期中の現金勘定への記入 (一部) は、次のとおりである。

現金					
売	上	1,600,100	仕	入	1,094,600
受	取	5,662,200	支	払	3,953,700
売	掛	2,783,100	買	掛	1,888,100
前	受	1,847,200	前	払	1,286,500

第 5 問 (28点)

岩澤商店の当期（平成28年 1 月 1 日から平成28年12月31日までの会計期間をいう。）における答案用紙に示した精算表を、未記入欄に適当な金額または科目を記入して完成させなさい。

なお、未処理事項および決算整理事項（一部）は、次のとおりである。

1. A社から取得した配当金領収書が未処理であった。
2. 仮払金は従業員の出張旅費の概算払いを処理したものであるが、当期末までに出張から帰り、実際に要した旅費の額との差額を現金にて精算した。
3. 現金の帳簿残高と実際有高とが異なり、その原因が判明しなかったため、適切な処理を行った。
4. 仮受金の原因を調べたところ、売掛金の回収額および建物の一部売却による売却代金であることが判明した。
なお、売却した建物の売却時点までの減価償却費は月割により計算しており、その金額を建物減価償却累計額に一度計上するような処理は行っていない。
5. 貸倒引当金は每期売上債権の 5%相当額を計上している。なお、期中では売掛金の回収不能額をすべて貸倒損失で処理している。
6. 売上原価は仕入の行で計算している。
7. 有価証券の売却原価の計算が誤っていたため、適切な処理を行った。